

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(上野高等学校)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿		日本一、生徒・先生がイキイキしている学校
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<めざす生徒像> 伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける生徒 <育みたい資質・能力> ○課題解決力…自ら課題を発見し、その解決に向けて自分の考えを深めたり 広げたりしながら、論理的に考える力 ○行 動 力…自分がとるべき行動を理解し、自分の考えに基づき周囲を巻き込んで行動する力 ○挑 戦 心…自分の長所を認識し、積極的に物事に取り組み、将来の夢や目標に向かって努力する力
	ありたい教職員の姿	○自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 ○生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	○生徒:学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者:国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民:地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学:学力と意欲の高い生徒の育成	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待 ○OPTA:進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民:情報発信と地域貢献 ○小中学校:地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関:地域人材の輩出	連携する相手への要望・期待 ○OPTA:教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民:教育活動への理解・協力 ○小中学校:指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関:キャリア教育充実のための協働態勢
(3)前年度の学校関係者評価など	○I人I台端末が導入され、ICT の活用が進められており非常に良いことだが、重要なのは授業力であり、ICT はあくまで分かりやすい授業づくりのためのツールとして効果的に活用してほしい。 ○生徒の授業満足度が目標に達していない学年があるので、なぜ満足度が前年と比べて下がっているのかなどを分析し、改善に努めてほしい。 ○進学型キャリア教育を進め、生徒がさまざまな体験や経験をとおして刺激を得られているのは良い。キャリアビジョンをどのように持たせられるかが、学習意欲の向上にもつながると思うので、継続して取り組んでほしい。 ○あいさつや身だしなみ等については、社会に出ると非常に大切であることから、しっかりと指導を継続してほしい。	

(4)現状と課題	教育活動	○文武両道の伝統があり、生徒の多くが勉強と部活動の両立を図りながら、一丸となって学校行事に取り組むなど充実した学校生活を送っている。熱心できめ細やかな学習指導と進路指導の結果、難関国公立大学をはじめ、生徒・保護者の高い国公立志望に込めている。 また、社会や地域の課題を発見・解決する「みらい探究」は、生徒の満足度も高く、充実した取組となっている。 ○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成をめざし、気づきつながらあう活動は評価されており、今後も、いじめや差別を見抜き解決に向けて行動できる力の育成を図るとともに、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)等の取組により、想像力・協調性や、新たな課題の解決に積極的に取り組む生徒を育成する。
	学校運営等	○これからの時代に対応した学習に取り組めるよう、学際的な学びや地域に関する学びに重点的に取り組む探究活動の在り方を検討し、生徒がイキイキと学校生活を送る姿が、中学生や地域に広く伝わるように「開かれた学校づくり」を推進する。 ○時間外労働時間の削減は前進したものの、「三重県立学校における教育職員の在校時間の上限等に関する規則」に則り、時間外労働が1ヵ月45時間以内、1年360時間以内を遵守できるよう、組織な運営で業務時間を削減する。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	・「課題解決力」や「行動力」、「挑戦心」を向上させる探究学習を推進 ・生徒一人ひとりが自己目標を実現できる教育活動を推進 ・「思考力・判断力・表現力等」を育むため、アウトプットを重視した学習活動を推進
学校運営等	・保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保し、本校の入学を希望する中学生・保護者が増加するよう、探究に力を入れた教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、いじめを許さない迅速な対応等の取組を推進 ・本校の教職員が生徒の成長を実感し、イキイキと勤務できるよう、活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みの構築や、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組等を推進

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○本校を志望する動機が明確で、入学後は様々な場面でリーダーとなる資質・意欲を持っている者 ○学習意欲が旺盛で、本校の学習内容及び教育活動への興味・関心が高く、優れた思考力・判断力・表現力を身につけ、主体的に学ぶことができる者 ○高い学力を有し、将来に対するビジョンを持っている者
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考											
1 生徒が学びがいを実感する学校	○全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図る。 【活動指標】 ・教員間による研究授業・授業評価の実施 ・より深い学びを主体的に行えるように、すべての授業で ICT の活用を進める。 ・生徒による授業評価年2回実施 【成果指標】 ・生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）90%以上 ・協働学習や個別学習で ICT を活用した教員割合 80%	【活動】 ・教員間による研究授業・授業評価を年2回実施 ・授業改善研修を年3回実施 ・教科ごとで ICT 活用をテーマに計画書を作成するとともに、事例報告を共有 ・ICTを活用し、不登校生徒への ONLINE 授業を実施 ・生徒による授業評価を7月と12月の2回実施 【成果】 ・1学年 91.1%、2学年 89.6%、3学年 88.9% ・100%												
	○生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図る。 【活動指標】 ・SSHの事業である「上高みらい探究プログラム」と連携し、「進学型キャリア教育」や「進学型インターンシップ」を ICT も活用し系統的に実施する 【成果指標】 ・「総合的な探究の時間」の授業満足度 80%以上 ・国公立大学合格者数、各クラス 10 人程度 ・週末の学習支援の実施。3年土曜講座7回	【活動】 ・「みらい探究」で積極的に ICT を活用した発表を行った。2 年生の発表会ではポスターセッションではなくミニプロジェクターを活用した発表を行い、高評価を得た。 <進学型インターンシップ> ①地域医療オンラインセミナー（県教委主催）2年生3名参加 ②岡波総合病院主催の看護体験 1年生1名、2年生2名、3年生1名参加 ③「高校生のための看護職キャリアデザイン講座」（三重県立看護大学主催） 1年生2名、2年生4名参加 ④作業療法体験・見学会（県作業療法士会主催） 1年生6名参加 ⑤伊賀市 IGABITO 育成事業6期目指定。 SSH 事業と合わせて1月 29 日にみらいプロジェクト発表会実施 【成果】 ・生徒満足度 12 月アンケート <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>1 年生</th><th>2 年生</th><th>3 年生</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理数科</td><td>95%</td><td>87%</td><td>90%</td></tr> <tr> <td>普通科</td><td>84%</td><td>77%</td><td>71%</td></tr> </tbody> </table> ・3年土曜講座7回実施		1 年生	2 年生	3 年生	理数科	95%	87%	90%	普通科	84%	77%	71%
	1 年生	2 年生	3 年生											
理数科	95%	87%	90%											
普通科	84%	77%	71%											

	○スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組を推進する。 【活動指標】 ・探究的な内容を含んだ授業を各科目の90%以上で実施 ・高大連携先の開拓と地元企業、卒業生、他校SSHとの協力体制の推進 ・「みらい探究R」の授業運営方法の確立と全教員での指導体制の構築 【成果指標】 ・生徒の各活動満足度各学年90%以上	【活動】 探究的な授業の実施科目割合100% ・理数科合宿や課題研究発表会、東京キャリアアップツアーなどの理数科行事を通して本校理数科卒業生との交流会を実施 ・本校卒業生が勤務する東京の企業を訪問する東京キャリアアップツアーを実施 ・本校卒業生を活用したみらい探究の指導助言 ・地元企業である中外医薬への企業訪問と実験実習を実施 ・三重大大学を中心とした外部講師による講演会の実施 ・課題研究を理科の教員が全員担当 【成果】 ・前項目と共通	
--	--	--	--

改善課題

・授業満足度調査によると満足度が90%以上の授業が多い。一方、満足度が90%を下回る授業もあることから継続して授業改善に取り組みたい。

・授業でICTを活用している教員の割合は100%となった。今後は非常勤講師の先生方の活用について検討していく必要がある。

・探究活動について、2年生では探究S・F・Rの3つに分かれるなど、運用面では苦勞したところもあったが、学年団の工夫やICTを活用した発表に向けて推進することで、よりよい学習活動が実践できた。次年度以降は学際探究科となり、一層探究学習が重要になることから、より充実した運営体制を構築する必要がある。

・共通テストへの対応が一段落し、第一志望への合格力を高める指導を一層拡充する。進学型インターンシップへの参加者が増え、生徒が様々な刺激を受ける機会が増えてきた。理数科では東京キャリアアップツアー等の取組を継続し、刺激から学問への好奇心を育む取組を増やしていきたい。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
2 保護者地域が頼りがいを実感する学校	○人権教育を積極的に推進する。 【活動指標】 ・人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ・教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ・新着任者および本校勤務2年目の教職員が年2回実施するフィールドワークに1回以上参加 ・全教職員が年1回以上人権に関わる研修や学習会に参加 ・生徒が主体的に取り組む小学6年生との人	【活動】 ・人権LHRに向けた事前学習・事後学習を含めしっかり協議を行って取りくめた。1学年は11/13(水)、2学年は11/6(水)、3学年は6/19(水)に公開人権LHRを実施 ・全体研修は7/14(金)に、小グループ研修は4～6月に2回、2～3月に1回実施 ・フィールドワークは6/21(金)、6/25(火)に実施。昨年度に続き、転任・新任が参加	

	権交流会を年2校以上実施 【成果指標】 ・人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加 ○生徒理解を深め、生徒の自己肯定感を高める指導を推進する。 【活動指標】 ・指導強化月間を年3回設け、あいさつ・身だしなみ、時間厳守、規律・安全指導を実施する。 ・保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ・支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施 【成果指標】 ・問題行動による特別指導件数を一層減少 ○学校情報を積極的に提供・発信し、地域の発展に貢献する。 【活動指標】 ・ホームページ・報道機関を通じて情報発信(更新履歴件数)年100件以上 ・生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催 ・小中学校との連携、地域イベントへの協力	・校内においても指導案検討会や人権研修会を実施(全教職員が参加) ・人権交流会を2校実施(上野西小学校12/12(木)、上野東小学校12/6(金)) 【成果】 ・人権サークルでは、3年生1名、2年生7名、1年生3名が、積極的に活動に取り組み、小学校との人権交流会では人権課題について自身の思いなどを発表した 【活動】 ・登下校指導をはじめ、職員全体ができる指導を継続的に我慢強くしていく必要がある。 ・2年では自己肯定感を高める指導については、進路LHRと冬休みの課題で、進路に関する「志望理由の組み立て方」をプログラムし、将来へのキャリアパスポートづくりから未来への展望までを、しっかり見つめながら取り組むことができた。 ・保健講話等については、1年は6月、2年は7月、3年は6月に実施。各学年、生徒が直面する悩みなどの解決や緩和に参考となったという意見が多かった(アンケート結果より)。 ・4月に保健部情報共有会、9月に教育相談事例検討会を実施した。 【成果】 ・いじめ案件6件と例年並み、今後も積極的な認知を必要とする。 ・伊賀署と連携しSNSトラブル防止教室を予定していたが、休校となり延期となった。ネットモラルや法律の理解など、多様な対応に対策が必要である。引き続き啓発できる環境を整える。 【活動】 ・ホームページ、インスタグラムを通じての情報発信回数81回 ・学校説明会等の実施回数年3回(7月学校説明会、8月理数科体験講座、9月高校生活入門講座) ・小中学校との連携について、上野東、西小学校との人権交流会を実施した。また、7月に実施された伊賀市主催の「いきいき未来いが」ではギター・マンドリン部がオープニ
--	---	--

	【成果指標】 令和6年後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率 1.1 倍以上	ング演奏を務めた。その他、上野天神祭りのボランティアスタッフに生徒が参加した。 ・名張市「青少年のための科学の祭典」出展および小学生のための科学体験講座に参加した。 【成果】 ・最終倍率 ●● 倍 （前期：学際探究科 4.13 倍、理数科 1.8 倍）	
3 教職員が働き甲斐を実感する学校	○過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進める。 【活動指標】 ・定時退校日を月1日設定し、定時退校できた職員の割合 70%以上 ・放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合 90%以上 ・部活動休養日を週1日設定し活動した部活動の割合 100% 【成果指標】 ・月 45 時間を超える時間外労働の延べ人数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働の人数 0 人 ・1人当たりの月平均時間外労働 25 時間以下 ・1人当たりの年休取得日数を昨年比 1.1 日増加(目標値 13.0 日)	【活動】 ・定時退校自体が難しい職場ではあるものの、意図的に声掛けをしながら推進している。 56% ・会議については、極力60分以内に終わる努力をしている。 72% ・すべての部活動で設定している。 100% 【成果】 ・72 人 ・13 人 ・26.5 時間 ・11.2 日	

改善課題

・人権教育については、人権LHRやさまざまな機会をとおして「教師がみずから語り掛ける」ことに取り組んだ結果、生徒の重要度満足度アンケートの評価は高く、今後も、生徒と教師の関係を丁寧に紡ぐ言葉がけの意識化に取り組んでいきたい。

・文化祭を本校保護者に加え、中学3年生とその保護者にも公開した。今後も保護者や中学生、地域の方の参加など、オープンな学校として中学生や地域へPRし続ける必要がある。

・学校情報の発信については、本年度から公式Instagramを開設し、可能な限り最新の情報を発信するように取り組んだ。フォロワー数も増えてきたが、引き続きさまざまな機会をとおして周知していきたい。

・過重労働緩和・総勤務時間縮減については、定時退校日に定時で退校できた職員の数や、会議の時間減少等は改善できたが、まだまだ課題は多い。次年度に向けて、改めて管理職から周知するとともに、時間外労働者数の減少に努めていきたい。

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○生徒の授業満足度が目標に達していない学年があるので、なぜ満足度が前年と比べて下がっているのかなどを分析し、改善に努めてほしい。 ○自己肯定感を高めることは大切だと思うので、継続して取り組んでほしい。今後は、教科指導(授業)でも自己肯定感を高める方策を検討してほしい。
---------------------	--

	○生徒満足度調査の数字は高いので、多くの生徒が満足した学校生活を過ごしていると思う。一方で、満足していない生徒も一部いると思うので、そういった生徒に寄り添いながら指導していったほしい。 ○生徒が挑戦したり、考えたり、地域と接点を持ったりするなど、生徒が自分を磨く機会が多いのが良いので継続してほしい。また、先生方が教育相談的な手法等も効果的に活用して、生徒の自己肯定感を高めていったほしい。
--	---

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	○生徒の授業満足度を高めるため、インプット重視の授業から、生徒が主体的に考えたり、まとめたり、発表したりするなど、アウトプット重視の授業に転換する。 ○教科指導で生徒の自己肯定感を高めるため、分かる授業づくりの研修等、一層授業改善を推進する。 ○学際探究科・理数科ともに社会人として「働くこと」の意義を理解し、多様な生き方に関する様々な情報を取捨選択・活用しながら主体的に判断できるキャリアプランニング能力を育成する。
学校運営についての改善策	・SSH 第2期として引き続き「国際舞台で活躍する科学技術人材の創出」に向けて、より高度な研究と国際交流を展開する。 ・令和7年度入学生から学際探究科と理数科になるため、探究学習や課題研究等を柱として、充実した教育活動を展開する。